

Symposium

シンポジウム07 (II-SY07)

両側肺動脈絞扼 (bPAB) からの二心室修復

座長:大嶋 義博 (兵庫県立こども病院 心臓血管外科)

座長:櫻井 一 (JCHO中京病院 心臓血管外科)

Sat. Jul 10, 2021 2:50 PM - 4:50 PM Track2 (Web開催会場)

[II-SY07-2]Bilateral PA banding for biventricular repair

○篠原 玄, 中野 俊秀, 帯刀 英樹, 安東 勇介, 藤田 周平, 荒木 大, 西島 卓矢, 酒井 大樹, 角 秀秋 (福岡市立こども病院 心臓血管外科)

Keywords:Yasui operation, bilateral pulmonary artery banding, biventricular repair

【対象】当院において bPABが開始された1992年以降2020年までに bPABを施行した VSDを伴う small left heart structure(AV/VA concordance、VSDを伴う PDA依存体循環、AVSD/MAは除外)の48例。最終治療により2心室修復(B群12例)/Yasui(Y群17例)/1心室修復(BDG/Fontan)(S群3/8例)に分けた。左心構造(bPAB前/次回手術前)は B群(AV径5.1/6.3mm, AV径-BW2.1/1.6, AV Z値-3/-2.1,LVDd Z値0.3/0.9, AV/MV構造異常 7/1例)、 Y群(AV径3.8/5.3mm, AV径-BW1.2/0.1, AV Z値-5.2/-4.4,LVDdZ値-0.8/0.2, AV/MV構造異常 17/0例)、 S群(AV径 4.8/6.7mm, AV径-BW 2.2/1.8, AV Z値 -2.7/-1.1, LVDd Z値-2.2/-3, AV/MV構造異常 6/3例)であった。

【結果】早期死亡は1例で ductal shock後、bPAB後門脈閉塞、腎不全で失い、遠隔死亡は4例で bPAB後9カ月時口タ腸炎、染色体異常の1例、Norwood後2年1例(原因不明)、Yasui後7年気道系の基礎疾患に関連した死亡1例、フォンタン後8年の突然死1例であった。最終治療が確定していない bPABの状態として b B群を加えた累積生存は B群100%/15年,Y群87.5%/10年, S群44.4%/10年, bB群40%/0.75年であった($p=3e-05$)。再手術は B群 Ross-Konno1, Y群 LVOTR3, RVOTR8, PA形成5, AsAo延長1, reCoA repair2, S群 PMI2, AV closure1であった。最終治療後の再手術回避は B群87.5%/3.5年, U群83.3%/4.5年,Y群74.8%/2.5年、45.3%/9.3年であった($p=0.2$)。【考察】 Small LVOTについては、諸家の報告から BVR後の再手術が高く懸念される AV径-BW=0~1.5に対して当院で開発された Yasui手術を適応され、遠隔成績は良好と考えられた。Small LV/MV症例は単心室治療の可能性を考慮しつつも大きな心房間短絡作成、右心バイパス手術により LV/MV発育が抑制されるパラドックスとともに、より低いサイズでは M弁構造異常が多くみられ、これらをふまえて今後さらなる知見の集積が望まれる。